

【第一分科会】②

**花里卓朗先生(千葉・千葉市立稲毛高等学校、附属中学校)
中・高・大連携授業－私が学んだこと・感じたこと－**

Q1 教員は、材料などの準備をどの程度まで行うのでしょうか？

A 模型の材料は、全員が希望すれば使えるもの→1mmケントボード、スタイロエース（フォーム）自由に使えるが材料がなくなれば配布しない→授業で余ったもの（ラシャ紙など）、100円ショップで購入（フェルト、布、カラー段ボール、アルミ針金等）頂きもの（皮や布のはぎれなど）の二つに分けて用意しました。その他、三面図のための1mm方眼紙や制作、鑑賞のためのプリント、参考になる映像資料などです。

Q2 アイデアの発想についての指導方法はどのようにしていますか？

A 授業では、「自分のアイデアをグループディスカッションでより良いものにする」「マインドマップを用いて言葉から連想させる」といったことを行っています。また、デザイナーの制作過程を映像で見せたりもしています。

Q3ブレインストーミングの指導方法を教えてください。

A ブレインストーミングは総合的な学習の時間に行いました。学年単位で行ったので、事前に学年所属の先生方と当日使う資料の説明も兼ねた打ち合わせをしました。当日はクラスで担任・副担任が10分程度ブレストの説明をした後に、班ごとに生徒が分かれて活動を行いました。ほとんどのクラスで活発に活動が行われました。（資料はインターネットで探したものに、生徒の状況を考慮して手を加えました。）

Q4 大学との連携のきっかけと年間計画における連携授業の割合はどのくらいでしょうか？

A 大学との連携は東北芸術工科大学酒井教授に誘っていただいたのがきっかけです。
（大学が遠方のこともあり）授業の中で連携するのが難しく、夏休みや休日にワークショップを行う形式になりました。

Q5 中高連携では、中学生も一緒に授業でしょうか？

A ワークショップには（稲毛高校は）希望者と工芸部（中学生も所属している）が参加しました。中学では技術科を担当しているので、芸術の授業として参加はできませんでした。

Q6 「デザイン思考」の言葉の出典はあるのでしょうか？

A 「デザイン思考」という言葉には東北芸術工科大学のワークショップで出会いました。どの本が出典なのかはわかりません。

Q7 「デザイン思考」を今後どのように広げていきますか？

A 工芸の授業だけでなく、総合的な学習の時間や、進路学習などの中で、「デザイン」を学ぶことで問題解決の手段がわかること、答えのない問題にどのように取り組むのかを紹介したいと思っています。

Q8 美術と工芸のデザインの違いを知りたい。

A 「他者のためになるものを作る」点では同じだと思います。ただし、工芸の場合は立体が多く、使う際に（持つ、握るなど）身体との関わりが深いこと、金属、陶土などの材料によってデザインに制約が大きい、などが美術と大きく異なると思います。

Q9 「デザイン思考」が生徒に身についたかは、どのように判断するのか。

A 完全にマスターしたという意味で書いているわけではありません。（身についたとは少々オーバーな表現ですね）しかし、この課題のあと、何も考えずに何となく形を作るのではなく、「どんな形にするか」「対象者や目的を考えて作る」といったことを、生徒が意識して行うようになってきたと実感したので、このように書きました。

Q10 テレビ番組の活用の注意点と著作権範囲はどうなっているのでしょうか？

A 文化庁などのサイトで著作権教育利用について調べて行っています。具体的な注意点が細かく記載されているので、参考になりました。

発表者より

〈2016〉千葉大会第一分科会では私のつたない発表に参加して下さい、ありがとうございました。

私は、自分の試行錯誤しながら授業を行っている過程が、皆様に何か役立てば…と思って今回発表いたしました。その意味ではもっと高度な研究発表を期待された方には物足りない内容だったかもしれません。また、工芸やデザインを専門的に学んでいないので、口頭発表やこの回答の中にもし間違いなどがあれば、ご指摘いただけると幸いです。

皆様からいただいたアンケートを見ると、意外にも自分と同じ境遇の方がいらしたり、「共感した」「参考になった」という言葉が、とても励みになりました。また、さまざまな質問や鋭い指摘により、自分の授業について再度考えることができました。この場を借りてあらためてお礼を申し上げます。